

幼稚園細目 (續き)

馬場 定 一

c、題材

子供の経験の大部分を産み出した中心が家庭といふ制度にあるといふ事實を承認する以上、題材の選定に關しては、この事實の影響を免れる事は出来ない事である。例へば可愛がられて育つた子供だと、自然界から受ける感化の外に更に家庭の感化といふものが附加せられるわけである。か様な譯で子供の経験の内容は其の量に於て多大の變化があり、從て又、小さい乍らも吾々が子供に提供し能ふ子供の周圍の世界の活動の度合も、幼稚園の異なるに從て、量的に著しく變化のあるものである。故にこの事實は、異つた階級の子供や、色々違つた條件の下にある子供等に對して、一定共通の細目を工夫する事に關して當然起るべき讀者の疑問に答へるわけである。此の種の細目が既に熱心な歸依者を持つて、稍廣く適用せられて居ると云ふ事實がないの

ならば、此の疑問を論議する事は、或は餘計な事かも知れないが、實際はさうでない。著者はこの種の細目の採用せられて居る實際に就いて、長い間或る二つの都市に於て親しく觀察して、其の結果、次の様な結論に到達したのである。即ち、貧弱にして平凡な保姆の手に使用せらるれば其の過程は生命なき機械的のものになり、其の保姆は單に文字の遵奉者に過ぎない事になるし、又能力ある保姆が之を用ふれば、能く其の子供等の要求に應ずる事が出来たといふのである。

一つのプログラムでどの階級の子供にもあてはまる様に之を編成する事はとても不可能な事であるが、プログラムの大體の體裁を一樣にする事は出来ないものでもなからうと思ふ。但し其の詳細や適用に至つては大なる相違のあるべきである。假りに、都市の裕福な上品な家庭に育つた子

供、田舎や海岸の生活を知つて居る子供の一群と、之に對して、少しも慰藉の無い家庭に育ち、其の周圍の社會生活や社會的教化等に至つては何等の調和も無い、汚い場末の長屋に生長した子供の一群とを採つて、前者の要求に應ずる様なプログラムを作つて、之を後者に適用したとせよ、果して如何なる反應があるだらうか、否、之に因つて如何なる反應を求めんと欲するのだらうか、更に之を轉倒して、貧民窟の子供の要求や經驗に適應する様なプログラムを作つて、之を富裕な家庭の子供の自發的活動や創造的生活を誘起する爲に適用したとせば如何なる結果が得られやう、刺戟の微弱、發達の阻害の好適例であつて、其の實施は、單に子供の力を萎縮せしむるに過ぎないのである。更に又、兩者何れにも眞に適應しない、妥協的模範のプログラムを計畫して、之を兩方に使用したとしたならば如何、其の結果の失敗に終る事は之を豫言するに躊躇するの要は無い。是は單に其の内容が不適當であるばかりで無く、靈感的性質を缺いて居る爲に、どんな方法を以て之を適用するも遂に平面的な結果に陥つて不利を招くの外無い。故に吾々の

目的が子供を發達させるのにある以上、題材の内容は、子供の要求に應じて變化のあるべきが當然である。

幼稚園細目の題材に關して警戒しなければならぬ事は、活動の計畫に餘りに念を入れ過ぎるといふ危険に陥る事である。即ち興味の世界を餘り廣くおぼはんと企てたり、又子供等が未だ其を受けるには、身體的にも、精神的にも準備の出來て居ない様な經驗を打込ふとする事である。是は恐らく如何に長き經驗を持つた保姆でも、一樣に犯して來た罪であらう。吾々は、子供の精神的發達に熱心過ぎる爲に、自然の限界を乗り越えて來て居るのである。細目の題材を簡單にする事は先輩の保姆諸姉が經驗の結果始めて之を能くする事が出来るので、若い保姆は先輩諸姉の經驗を參考して、子供の能力に相應すべき理想を以てその仕事を始めるべきものである。

教育的價値の事を述べた場合に説明した如くに、題材の爲に生活の或る形を選ぶに方つては、保姆は自分の特別の組の興味や經驗を土臺にしなければならぬことを繰返し度いのである。之に就いては法則を定める譯には行かないが

子供等が導いて呉れるのであるから、之に従てその興味を有益な方面に轉ずることを研究しなければならぬ。例へば或る幼稚園の保姆は、其の組の大きい方の子供と一緒に、五月の全月を、溝鷓鴣、駒鳥、葦切、啄木鳥の四の鳥の研究に費した事があつた。此の研究に與へられた時間は毎日唯僅かづゝであつたので、それ程充分な研究では無かつたが、幸駒鳥以外の鳥は、園内に其の巢があつたから、保姆は戶外生活と此の興味ある研究とを最も楽しい方法に組合はせる事が出来て、子供等はクレヨンや粘土で、この研究を一貫して得た觀念に子供らしい發表を與へ、且つ毎日の出來事全部を話し合ふべき充分な機會が與へられたのであつた。是は子供等や保姆にとつては實に有益な興味ある事ではあつたが、若し子供の環境や興味が、その出發點として具體的の知識を提供しなかつたとしたならば、或は却て馬鹿氣た過程であつたかも知れない。子供は抽象的の事に對しては之を諒解する丈に充分年をとつて居ない」といふ事を保姆は絶えず頭に持つて居なければならぬ。

d、過程

目的の追求に次いで起る問題は手順であつて、之は子供から分離せられるべきものでなく、唯子供の要求や正常なる經驗と調和を保つて行はるべきものである。「手順は、子供の創意に應じた動作を教師が計畫したもののあらはれでなければならぬ」と誰かゞ云つたが、其の通りである。幼稚園時代の子供が自己を表現するのは、遊戯、談話、研究及構成や表現に對する小さい努力と云ふ様な、種々に變化する活動の形に依つてであつて、是等の活動の形は、實施の手順を吾々に導く所の中心核を形作るものである。子供等は其を貫して今日まで發達して來たのであつて、吾々は此の活動を採り之を更に大なる生長と發達の手段に利用するものである。子供等が幼稚園に這入つて來ない以前にしまたつて居た方法から、今子供等を分離するのは、單に吾々の子供の現在及將來の要求に應ずべき見地から、今日までのこの活動を更に安全にして健全なる進路と信じて居る所へ、意識的に導くと云ふに過ぎないのである。

幼稚園に這入つて來た當時の子供の遊戯は概ね次の三つの形を以て現はされるものである。力を働かせるもの、他

の子供に對して自分の力を量るもの、及模倣、之である。子供が自分で小さい遊戯の世界を建設する様な想像的遊戯は未だ此の時代の一般の特徴ではなく、又純粹の劇的遊戯も未だ發達しては居ない。是等はもつと後になつて起るもので、子供が更に發達しても少し豊富な經驗を持つ様に環境付けられて來れば、かゝる形の遊戯は幼稚園の進歩して行く過程に於て正當の部分を構成するに至るものである。

是等の自然的遊戯から、ランニングやスキッピングやゲーム等に似た様なものや、又は傳統的の遊戯等が生れて來るので、其の間模倣が著しい勢力を持つて居るのである。是等から吾々は勞働的遊戯の或るものに導くので、其の間に於て、吾々が取扱つて居る子供の發育の時代に應じて、模倣や劇化の調子を強めて行くのである。

言葉を使ふ上の子供の能力は幼稚園に這入らない前に受けた感化に依りて一樣ではなく、その話方は家庭に於ける躰の特質の殆んど間違の無い索引である。保姆は先づ子供の使ふ言葉から出發して、言葉を構成する事や發表の方法を訂正したり、改良したり、更に子供の生長しつゝある智

能に相應して文學上の形への紹介に由りて子供の國語の知識を擴大し、豊富にする事等に着手するのである。かやうにして吾々は、注意して擇んだお嘶やリズムに富んだ詩を要求するに至る様な手順を見出すのである。

探究は、又好奇心とも言はれるものであつて、かう云ふ形で現はれる子供の活動は屢々兩親の失望を招き、その家族からは、小さい子供の上に一再ならず罪の宣告が下される事であつた。しかるに此の活動こそは保姆にとつては、幼兒期の主なる資産の一を形作るものである。保姆は此の力を利用すべき手段と機會とを供給しなければならぬ。その方法としては建設的方針に依ることである。故に保姆は子供が満足する丈研究もし發見もする事が出来る爲に、事情の許す限り何時でも自然界に遠足して、歸つて來たならば、子供を自分の周圍に集めて、新しく得た知識や活潑にか不活潑にか見出した新しい物象モノなどを話題として面白い會話をすることが出来る。又保姆は、或は別々に離したり、一緒にしたり、又は澤山の新しい、心を惹きつける方法で組合はず事の出来る材料例へば積木の如きものを供給する

事もある。要するに保母としては、子供に對するその反應が、肉體的にも、精神的にも、又は道德的にも福利となる様に、此の眞に立派な活動に多くの正當なる出口を與へる事である。此の研究本能に應ずる爲には、保母は又、建設の企に於て現はれて來る所の活動の爲に用意することであつて、積木や砂床での遊は此の要求に應じ、又所謂作業 Occupation の一部も此の要求に應ずるものである。子供の發表の企は物質的に變化するものであつて、茲に於て再び家庭の感化は或は刺戟ともなり又は防止ともなるのである。例へば、家庭にクレヨンや黒板があつて之を試みて居た子供は、始めて幼稚園に這入つて來ても其の發表的物質の使用には非常に容易であるが、之に反して、家庭に斯かる刺戟物を缺ぐ子供には發表的仕事は多少新しい活動の世界となるわけである。幼稚園の方法は、供給せられたる材料と、活動をして有利ならしむるに充分なる有ゆる指導とに由つて極簡單なる發表的仕事から、もつと六かしいものに至るまで、絶えず子供の能力を心に持つて之を指導して行かねばならぬ。板並べや箸は特に此の形の活動に役立つ

つものであるが、クレヨン畫、彩色畫、切り抜き、粘土細工等の更に自由な仕事も亦緊要なる材料となるものである。

保母が其の出發點として是等の活動を選択する目的は、稍目あての無い子供の活動を、目的に満ちた有用なる活動に導き、かくして、直接間接に子供等をして其の環境を知らしめ、之に適應せしむる様助けるにある。是は子供の經驗を統一せしむべき手段の第一歩である。

目的、題材及手順を定め、更には等の細目の形が子供等の生活に自然的に働く様にした上で、尙その細目が細目らしくならないで、寧ろ小さい子供の團體と、保母の精神とが一團となる様にして、以上の種々なる局面を調和せる全體に纏める事に注意しなければならぬ。

細目の實施

一、手順の二途

保母の仕事の計畫を實施する手順に二つの道がある。其の一は家庭、自然、實業界及宗教等の間に暗に含まれたる關係聯絡を基礎として編成せられたる細目に導くことであ

る。此の仕方に子供が密接して來れば、少くとも多少でも以上の色々な關係を意識する様になるだらうし、又其の結果子供の道徳的生活にも、精神的生活にも有利だといふ事が豫想せられる。第二の道は、或る一組の子供の日々の活動に注意を集中して、是等の活動の線に沿ひて精選したる過程に由る手順に導くものである。此の手段に於ては、子供の身體的發達に主力を注ぐべきであつて、精神的態度と道徳的習慣とは適當に指導して行かねばならない。前方法は注意深く編成した細目を要求し、後者は偶發事項に従ふ行爲の細目が編成せらるるわけである。

二、兩者の批判

右二手段に就いての爭論の結果色々な批判を生じた。前者の場合に就いては、その行爲の計畫は、子供には未だ發達して居ない統覺の力を要求する事になるのだと云はれ、又其の崇拜者たる保姆に實施の結果を餘り大袈裟に云はれて居るのだから、結局之を用ふる人々は其の結果から實際以上の價值を要求して居るのだとも云はれるのであるが、之は解釋を誤つた場合である。後者では、其の仕方が計畫

的でなくして餘り憐憐をあてにし過ぎて老練な保姆や、技巧に富んだ保姆でなければ思ふ様な結果が得られないから無定見な仕方に陥り、從て子供等は適當に訓練せられないし發達もしないと云はれて居る。公平な觀察者は兩者の批判が能くせられて居る事を容れなければならない。即ち兩者共、危険があると同時に慥かに好い所である。

三、幼稚園の改革に對する強き傾向

幼稚園の改革に對する今日の要求は、今に始まつた事では無く、既に主張せられて、今は世間に能く知れ渡つて居る事實である。何となれば、最も保守的な幼稚園でさへも其の過程の變化、殊に細目の實施と、恩物や作業の材料の使用との二者に關しては其の改革せられて居る事が注意せられるからである。場合に由つては根本的にも變化されて古い制度に關する總ての事は價值なしとして投げ捨て、更に之を顧みないで、新しい考や新しい方法は熱心に適用せられてさへ居る。然し乍ら此の事は慧眼な人のとらないところで古い考にも善い點は充分にあり、且つ永遠の價值を認むべき點も尠く無いので、古いからと云つて新しいもの

に從て之を捨て、顧みないといふわけには行かない。此の偶像破壊の方法には餘りに見世物的な所があり。吾々は之を始めた人々の誠意と深さとを疑ふものである。而もなほ吾々は、改革せらるべき幼稚園の要求即ち現今教育に於ける最も善きものを持つて同列の幼稚園の要求には應じないわけには行かない。之は現在の幼稚園組織を破壊せずとも、單に之を取捨する方法に依つて其の目的を達する事が出来るものである。

進歩は或る過激論者が明かに信じて居るが如くに、今日の組織を破壊し分解して行はるべきものではない。今は吾々は改革に對しては全く熱狂的態度であるが、而も或る保育者の眼には改革と見えて居る事でも、實際は全く進歩は其の跡を絶つて居る。かくして吾々は、四方八方に耳を長くして新しき計畫——新しい聞文の新しき計畫を求めて、其の後を狂人の如くに追ひ廻して居る。幾多の保姆の見世物を見せつけられて居る。而して其の結果は如何であらう？ 理想的の狀況を得るでなく、統御と自發の巧な平衡の上に築かれた幼稚園となるでなく、多くは無秩序と破壊と

がその目的であるかの如く見ゆるものである。舊いものは總て捨て、仕舞つたが、之に代るべき何物も持つて居ない、「結局どうしやうと思つて居るのか？」何故に此の改革が必要なのか？」に對して何等判然した答も無く、信服出来る様な説明もし得ないのである。

私は今日の幼稚園法には改革の必要があるといふ事は承認するものである。吾々の現在の仕事の中には斷然切つて捨てなければならぬ局面があり、又現今の組織に合體せしむべきものもある。殊に四歳より七歳迄の間の子供の肉體的並に精神的要求に關する一層新しい思想に就いてはさうである。併し其の改革は充分に考へて、巧に之を行はねばならぬ。又吾々は如何なる傾向に向ひつゝあるかを自覺し且何故吾々がこんな事をして居るかを正直に答へる事が出来なければならぬ。でなければ吾々は教育者といふ資格は無くして、寧ろ物好きな人間と云はねばならぬ。

或る保姆は「私共はもう恩物は使つて居ません、今は誰も恩物なんか使つて居ないですから」と云つて居るが「何故使はないのですか？」と尋ねると「さあ、何故でせう、で

も今ぢや、何處にあるのかすら知つて居るものはない位ですもの」と、かくして此の考無しの娘さんは、子供の爲には最も勝れた發表の材料であるものを投げ捨て、仕舞ふのである。しかも之に代るべき適當なる代用物を探さうとさへしないで、どうせ何か代用物が出る筈だからと、唯機會の來るのを待つて居る。子供は毎日何かをして生長して行くものだから、日に醒めてゆくその力を打ち込むべき材料が與へられなければならない。幼稚園の大切なる價値の一つは子供等の活動に對する適當なる出口を供給してやる事である。若し子供等から適當なる活動の手段を取り去つて、幼稚園の室の四方の壁から勝手に何か刺戟物を發見させる様に捨て、おいて見よ、必ず次のやうな格言を思起させられることである。

忘れて居る手には惡魔が惡戯をさせる。

Satan finds some mischief still

For idle hands to do

吾々は今日幼稚園に必要な改革の緒につくべき最も都合の好い時である。モンテンソリー法が公開せられて以來、

幼児教育に於て自由の必要な事が幾分か通俗化せられ、又お役人達の考もこれまでよりは、よく幼児教育の要求に對し子を合せて貰はれる様になつた。故に、是等の要求に對して一般の注意が惹きつけられて居る間は、吾々は幼稚園の子供に對してもつと確かな、そしてもつと正常な生活をさせる事が出来る様な環境を供給し得る様に、もつと都合の好い案や、子供の身體的訓練に對する適當な裝置や、花園、飼育動物に對する餘地等を、幼稚園が命令的に要求するの都合が好いわけである。吾々は幼稚園の進歩改革を要求する人々の前には困難と障害の横はつて居る事は承知して居るし、又學務委員の無關心と冷淡とは充分知つて居る。併し吾々は唯免ることの出来ない消費を實現して居るのみである。吾々は幼者に對して命令的な無條件の訓練を信ずる人々の持つて居る反對や敵意は充分之を認むるものである。かゝる障害のあるに拘はらず尙幼稚園の改革をなす爲に協定を経たる一致の行動を取るべき時の熟して居る事を信ずるものであつて、此の場合起る所の障害と、之に打ち勝つべき困難とは、之を幼稚園運動の開拓者の遭遇し且つ

打ち勝つて来たものに比すれば實にいふに足らぬ些々たる事と信ずる。今日既に幼稚園改革の實行の爲に働いて居る保母も澤山あるが、吾々の必要とする所は一致の行動にある。

「教育は、其の教授も訓練も、根本的に、第一義的に、必ず受働であるべきであつて（見守ることと保護する事のみは能働的に之を行ふが）、命令的、絶對的な干渉は決してなすべきでない」とは八十餘年以前フレーベルの述べた記憶すべき言葉であつて、今尙依然として特殊の意味を持つて居る。吾々がその立場を、より一層自由なる幼稚園に取るならば、當然このフレーベルの教訓に一致するわけである。而して事實は、此の叙述の意味は總ての保母に理解されなかつたか乃至は學校を出て後其の意識から逃げ去つたものらしい。保母は其の事の実際に適用せらるゝのを見なかつた事は事實であらう。所が今日では、幼稚園の外観丈で、このフレーベルの實際の例證を見せつけられて居る。モンテッソーリ女史はその「兒童の家」に於て「發育の爲の自由」を高調して居る。其の實際は彼女の理想と全然一

致して居るものとは思へないけれどもなほフレーベルの直弟子の多くのものよりも一層慥かにフレーベルの或る理想を例證して居る。多くの保母は、仕事の或る組織に従ふ事や又或る結果に到達せんが爲に熱中して、幼稚園組織に活力と永遠性とを附與すべきフレーベルの哲學の根本主義と其の理想とを忘れて居るのである。

幸にも數年前この方多くの考ある保母は、自分の幼稚園をもつと自由な空氣にしやうとする考が起つて、子供等に總ての幼稚園の仕事をさせるのに其の個性の發表をもつと自由にする事を認める傾向が出来て來た。吾々は視學や校長の事を始終考に持つて居ねばならないし、又多くの保母がその理想の實行を貫徹する上に就いては随分鋭い防止のある事をも承知して居なければならぬ。自分の上官の意志に公然反對する事は政策としては勿論不得策ではあるが、自ら健全な教育上の見地に據りて建設したる理想と信ずるものを放棄してまでも上司や校長の御機嫌を伺つて、みす／＼機械的方法に陥る事も亦間違つた事である。今は進歩の時代である。視學や校長にしても追々其の考が變つ

て行く事と思ふ。或る視學が數年前、小學校初年級で、手工の初歩と其の仕事に必要な子供等の間の禮儀の交換とを以て「教育の神聖を汚すもの」とした事があつたが、其の人も今日は熱心なモンテッソリーの辯護者となつて居る。たとへ視學の反對があつても、自由と、自ら活動に關する

玩具は發見發明の一街道たること

藤 五代 策

凡ての子供は活動的で、物事を破壊し、又建設する性能を有つてゐる、しかも時々刻々に變化し、新規を好み不思議を歡ぶ氣風を具へてゐる、玩具はその潑刺たる子供の心理状態と全く適合してゐるところに、大なる價值特徴が籠れるのである、或人が玩具の生命は意匠にありと絶叫したのも味ふべき眞理であらふ、夫れ故玩具を考案し製作するものは、是非とも兒童心理に精通しおくことが肝要である、或る時獨逸で五百人の子供を集め、彼等の最も好める犬の

自分の理想とをその細目の中に働かせる事は出来るのである。況して、賢明なる、如才ない保母ならば、いつかは、視學に、よし自分の主義に全然同意させる事は出来ないまでも、其の實行を承認せしめる事は出来ると思ふ。

畫を描かせ、其の特徴を探りて玩具に作り非常に歡迎されたと云ふことである、又此の國では時々多額の賞金を投じて玩具圖案の懸賞募集をやる、さうすると國內の錚々たる教育家、宗教家、工業家などが先を争ふて應募するのである、これがため當國の玩具は一般に斬新奇抜なものが多く、子供には最も多く愛玩されるのである、斯様に面白い玩具を智識慾旺盛な子供に與へることは、恰も大旱に豪雨の天恵あると同様で、如何に彼等をして工夫發明の動機を附與